

第4章 目標と取り組みの方向（案）

第1節 第2次健康いるま21計画の目標（指標）に対する評価

5 歯と口腔の健康

（1）歯科健（検）診の受診者

項目	前回値 (平成24年度)	目標値 (第2次計画)	現状値 (平成29年度)	評価
定期的な歯科健（検）診の受診者の割合	26.3%	30%以上	33.0%	A

- 年代別でみると70歳代以上を除くすべての年代で前回値を上回り、特に30歳代、40歳代の世代が7ポイント以上高い状況でした。

平成27年7月に「入間市歯と口腔の健康づくり基本計画」を策定し、歯科医師会や歯科衛生士会等の協力により周知を行いました。

また、成人を対象にした健康長寿サポーター養成講座、特定健診情報提供パンフレットへの掲載等でも周知を行い、乳幼児健診においても保護者に向けて普及啓発に努めました。

（2）歯間部清掃用具の使用者

項目	前回値 (平成24年度)	目標値 (第2次計画)	現状値 (平成29年度)	評価
歯間部清掃用具の使用者の割合	40.8%	43.0%以上	41.9%	B

- 前回値よりは1.1ポイント上回る結果でしたが、目標値には達しませんでした。特に若い年代での使用が低い状況でした。

（3）自分の歯を有する人の割合

項目	前回値 (平成24年度)	目標値 (第2次計画)	現状値 (平成29年度)	評価
40歳代で喪失歯のない者	70.7%	74.0%以上	76.8%	A
60歳代で24歯以上	64.0%	67.0%以上	65.0%	B

- 「40歳代で喪失歯のない者」の結果が目標値を2.8ポイント上回りました。

「第3次健康いるま21計画」 第4章 目標と取り組みの方向

「定期的な歯科健（検）診受診の重要性」と合わせ、乳幼児健診や小中学校の保護者に向けて普及啓発に努めた結果と考えます。

「60歳代で24歯以上有する者」は目標値に達しませんでした。前回値より1ポイント上回りました。

第2節 分野別の目標と取り組み

5 歯と口腔の健康

(1) 現状と課題

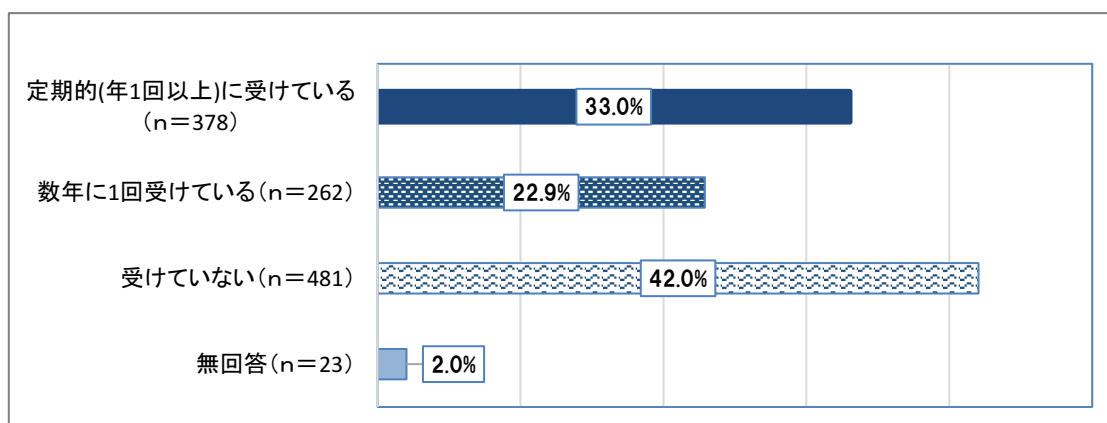
① 歯科健（検）診の受診状況

平成27年7月から「入間市歯と口腔の健康づくり基本計画」を策定し、成人期のめざす姿「歯と口腔の知識を得て、生活習慣病と深く関連する歯周病を予防しよう」を掲げています。歯周病は慢性的に進行し初期には自覚症状が少ないため、日頃のセルフケアに合わせて、定期的な歯科健（検）診が大切です。

市民健康実態調査によると歯科健（検）診の受診状況は「定期的に（年1回以上）受けている」と答えた人は、前回調査に比べ6.7ポイント増加し、33.0%でした。年代別でもすべての世代が前回より上回る結果でした。

今後も引き続き定期的な歯科健（検）診の必要性を普及啓発し受診率を高めることが課題です。（図1）

（図1） 歯科健（検）診の受診状況



② 自分の歯を有する人の割合

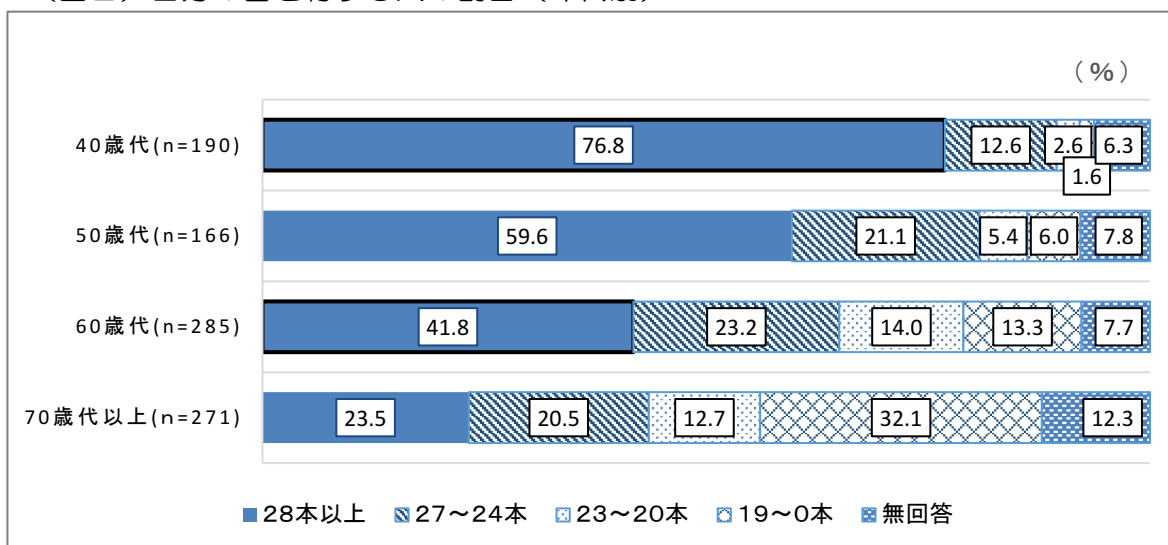
「健康日本21（第2次）」では、歯の喪失防止として40歳で喪失歯のない人の増加、60歳で24歯以上、80歳で20歯以上（8020運動）自分の歯を保つことを目標に掲げています。（永久歯は親知らずを含めると上下16歯ずつ、合計32歯あります）

市民健康実態調査によると「現在、あなたの歯は何本ありますか」の問いに、40歳代で喪失歯のない人は、前回調査に比べ6.1ポイント増加し76.8%、60歳代で24歯以上の歯を有する人が前回調査に比べ1.0ポイント増加し65.0%でした。

今後も引き続き若い年代から口腔ケアの重要性を周知していくことが必要です。

（図2）

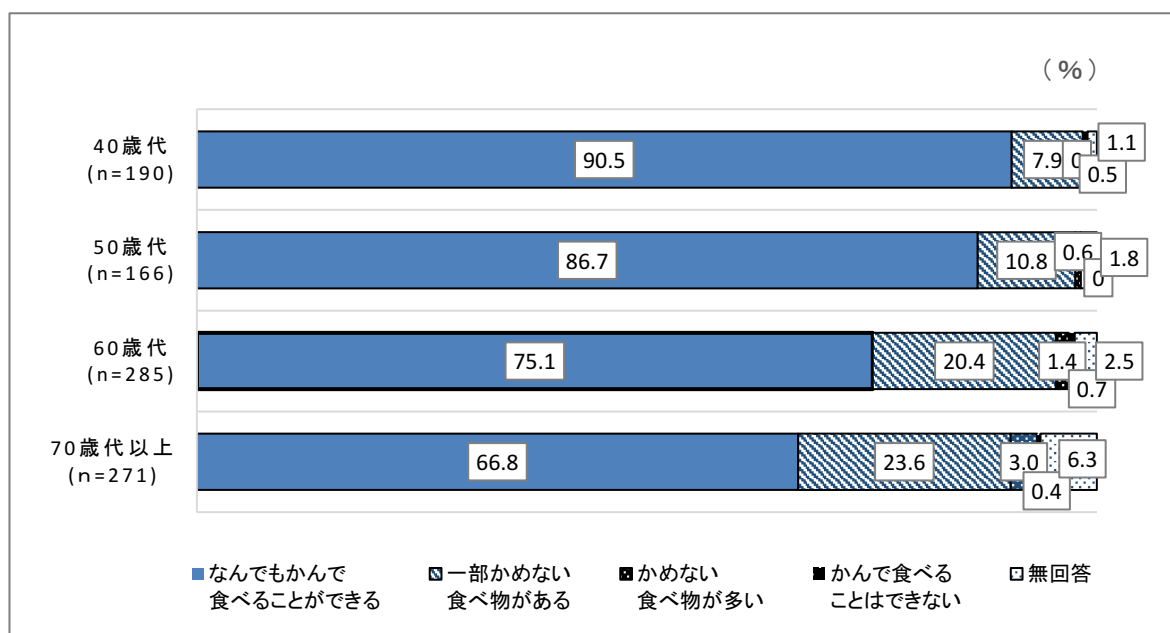
(図2) 自分の歯を有する人の割合(年代別)



③ 食べる時の状態

国の指標である「60歳代における咀嚼良好者の割合の増加」^{そしゃくりようこうしや}現状値 72.6% (平成27年)と比較すると、本市では75.1%と上回る結果となりました。一本でも多くの歯を残し口腔機能を維持することはQOL(生活の質)の向上や健康寿命の延伸にも大きく寄与します。今後さらに「入間市歯と口腔の健康づくり基本計画」のめざす姿「いつまでも健康な口で、食べる喜びをかみしめよう」の実現に取り組みます。(図3)

(図3) 食べる時の状態(年代別)



(2) 目標

- ① 歯と口腔の知識を得て、生活習慣病と深く関連する歯周病を予防する
- ② よくかんで食べることを意識して、口腔機能を維持し健康長寿をめざす

(3) 目標値

- ① 歯と口腔の知識を得て、生活習慣病と深く関連する歯周病を予防する

指標	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成35年度)	県 (平成28年度)	国 (平成28年度)
定期的に(年1回以上)歯科健(検)診を受ける人の増加	33.0%	52.0%以上	※156.4%	※252.9%

◎目標値は「入間市歯と口腔の健康づくり基本計画」に準じて設定しました。

(※1、※2 県・国と設問構成が異なるため参考値として掲載)

県：平成28年度国民健康栄養調査埼玉県分

国：平成28年「国民健康・栄養調査」

指標	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成35年度)	県 (平成28年度)	国 (平成28年度)
自分の歯を有する人の割合の増加				
40歳代で喪失歯のない者	76.8%	80%以上	—	73.4%
60歳代で24歯以上	65.0%	70%以上	—	74.4%

◎「40歳代」の目標値は前回調査70.7%の結果を踏まえて設定しました。

◎「60歳代」の目標値は国「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に準じて設定しました。

国：平成28年「歯科疾患実態調査」

- ② よくかんで食べることを意識して、口腔機能を維持し健康長寿をめざす

指標	現状値 (平成29年度)	目標値 (平成35年度)	県 (平成28年度)	国 (平成27年度)
60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	75.1%	80%以上	71.2%	72.6%

◎目標値は国「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に準じて設定しました。

県：平成28年「県民の健康に関するアンケート」

国：平成27年「国民健康・栄養調査」

(4) 目標の実現に向けた主な取り組み

- 歯や口腔の健康づくりに関する正確な情報提供に努めます。
- デンタルフロスや歯間ブラシの有用性について、各種健康教室・講座、健康診断や乳幼児健診等の場を活用し普及啓発を行います。
- 歯や口腔と生活習慣病等の関連について周知を図るとともに、年代に応じたきめの細かい支援に努めます。
- 歯や口腔の悩み、歯科医院の紹介など相談体制の充実に努めます。
- 定期的な歯科健（検）診や歯科保健指導の重要性について普及啓発します。

(再掲：入間市歯と口腔の健康づくり基本計画)